

日本地球電気磁気学会会報（第77号）

1978年2月25日

日本地球電気磁気学会

連絡先 東京都文京区弥生2丁目11の16（〒113）

東京大学理学部地球物理学教室内

電話 03-812-2111（内線6476）

I 第63回総会ならびに講演会の開催について

春の学会総会および講演会は東京大学理学部のお世話で東京で開催されます。

1. 期間 昭和53年5月16日（火）～5月19日（金）
2. 会場 東京大学農学部および地震研究所
3. 講演申込みおよび予稿集原稿送り先

〒812 福岡市箱崎 九州大学理学部物理学教室

北村 泰一 宛

締切り 3月31日（必着）

予稿集原稿は、同封の規定用紙に黒インク又は黒ボールペンで丁寧にお書き下さい。

用紙が更に必要な場合は学会事務所あてに御請求下さい。

4. 田中館賞候補者推薦および総会議題の申込は、4月15日（土）までに学会委員長宛に書面で御提出下さい。

送り先 〒606 京都市左京区北白川追分町

京都大学理学部地球物理学教室 前田 坦

5. 今回の学会では「惑星科学（Planetology）」のセッションを設けて、隕石・月・惑星などに関する発表をまとめてみたいと考えております。このセッションを希望される方は、講演申込用紙に「惑星科学セッション希望」と御記入下さい。

II 新入会員

前回国報記載以後の新入会員は下記の通りです。

大屋 峻（三井金属エンジニアリング）	大久保 修平（東大理）
矢野 漣（高知工業高専）	中田 正夫（東大海洋研）
住友 則彦（京大教養）	野田 弘（地球科学研）

*は学生会員 国内会員総数484名

Ⅲ 学生会員の継続について

規約により、正会員中学生会員となることを希望する方は年度毎にその登録をしていただくことになっております。新年度も学生会員の継続を希望する方は学会事務局あて、継続届を御提出下さい。書式は自由ですが、以下の各項目は必ず御記入の上、指導教官にサインをしてもらって下さい。①氏名、②所属大学(院)、学部学科(研究科課程)、③卒業予定年月、④指導教官所属・職・氏名。なお3月中に学生会員の継続届の提出がない場合には、自動的に一般会員の会費を請求されることとなりますので御注意下さい。

Ⅳ 会員名簿について

前回会報でお知らせしたように、新しい会員名簿を作る準備をしております。現在までのところ、住所録作成用カードをお送りいただいたのは、会員のうち約半数(250名)です。今回の会報にも住所録作成用カードをつけておきますので、まだお出しになっていない方、出したかどうか不明な方はカードに御記入の上3月中にお送り下さい。

Ⅴ その他

1. JGGアンケートについて

さきほど実施したアンケートには約150名の会員から回答をいただきました。現在運営委員会で結果をとりまとめ中であり、5月の学会の際にその内容について御報告する予定です。

2. 研究助成の募集について

三菱財団より昭和53年度の自然科学助成応募申込書がとどいております。1件2,000万円以内約10件総額約1億1,000万円で、9つの重点対象分野が指定されており、締切りは5月31日です。また日本証券奨学財団の研究調査助成募集も近々にとどく予定です。1件400万円以内約10件で総額3,000万円で、申請締切りは4月30日です(昨年度実績)。これらの助成の応募用紙の必要な方は、学会事務局まで御連絡下さい。

3. IAGA事務局からのお知らせ

IAGA News No.16が昨年暮に印刷され、これまでにIAGA事務局に配布希望を申出しておられた方には本年度始めにお届けしました。この号には昨年のIAGA会議できめられた諸事項(新定款、決議文全文、1979年総会のときのシンポジウム題目など)以外に、Geophysical indices 総説、地磁気観測所3文字略号表案など日頃の研究に参考となる記事

も多く集録してあります。新しく入手ご希望の方々は葉書で結構ですから、英文・和文宛先明記の上、東京大学理学部地球物理研究施設 福島 直 宛にお申出下さい。

4. 日中科学技術交流協会が設立

昨年12月17日、日中科学技術交流協会が日中両国科学者・技術者のあいだの友好交流を強化発展させることを目的にこれまで学术交流のため訪中した科学・技術者218名の参加によって設立されました。

同協会は日中科学技術交流が一層発展するためこの目的に賛同する科学・技術者の入会を呼びかけています。

入会ご希望の方は下記にお問合せ願います。

日中科学技術交流協会

〒170 東京都港区赤坂4-3-30 横川ビル 日中協会内

電話 03(585)8710

5. 日本学術会議第74回総会報告

第11期の最初の総会に当たる第74回総会は、1月23～25日の3日間、日本学術会議講堂で開かれた。

総会は、規定に従い事務局長の議長代行のもとに開会され、まず沖縄県在住の科学者の代表として琉球大学法文学部教授米須典文氏及び琉球大学農学部教授赤司景氏がオブザーバーとして参加されている旨の紹介がなされた。

ついで会長選出に移ったが、会員から従来の方法では判断の資料が不足しているのではいつたん休憩し、部会を開催して候補者についての情報の交換をしてはどうかとの意見が出され、これについて活発な議論が行われたが、結局従来の方法で行うことになった。

投票の結果、会長に伏見康治会員（第4部）が選ばれた。

就任の挨拶に立つた伏見新会長は、(1)全会員の英知を結集するため総会主義を貫く、(2)重点的に問題をしぼって審議を行う、(3)当面の仕事に追われて本質的な問題を見失なうようなことはしない、(4)国際的な学術交流・協力にかかわる活動の強化、とりわけ発展途上国とのそれに重点を置く、など学術会議の今後の活動について会長としての抱負を述べた。

ついで、伏見会長が議長席につき副会長の選挙に入り、人文科学部門から岡倉古志郎会員（第2部）、自然科学部門から名取禮二会員（第7部）が選出され、両副会長からも挨拶があり、第1日目の日程を終えた。

午後の各部会では、部長、副部長、幹事の選出等が行われた。

総会第2日目には、まず、総務第一前会長が第10期の総括的な報告を行った後、引き続いての退任の挨拶の中で、我国の科学の発展にとって本会議の果たすべき役割の重要性を強調した。

ついで運営審議会付置小委員会の活動報告が行われた。特に高橋前副会長（財務委員会委員長）からは、本会議の予算の現状について詳細な説明があつた。また伏見前副会長によるIOSU小委員会の報告では1979年に開催されるUNCOSEF（国連開発のための科学・技術会議）にどう対処すべきかという問題提起があつた。この後、各部、各委員会等から第10期の活動のまとめや第11期への引継ぎ事項に関する詳細な報告があつた。

諸報告の終了後、短時間ではあつたが第11期の活動計画を策定するための手続き等について自由な討論を行った。討

論は期の最初の総会にふさわしく、終始活発な質疑応答が行われ、予定を延長して午後6時すぎに終了した。

総会第3日目には、「第11期の活動に関する基本計画の策定並びにそれに伴う各種委員会の当面の措置について（甲合せ）」についての審議が行われた。本議案は、第11期の本会議の基本的な活動計画を策定するため、4月総会までの8か月間、いかにして全会員が英知を結集して審議を行うか、ということに関する内容のものである。そこで、この議案については、岡倉副会長からきわめて詳細な提案趣旨の説明があり、慎重審議の上、第11期活動計画委員会を設置することを主要内容とするこの提案を全会一致で採択した。

この委員会は、(1)会長及び副会長、(2)各部の役員の中から選ばれた者各1名、(3)各部の会員の中から選ばれた者各8名（新会員1名以上を含む）で構成するものとし、また各部にもこれに対応する小委員会を設け緊密な連絡をとりながら作業を進めることとなった。

このため第75回総会までは、国際協力事業特別委員会を除く特別委員会はもちろん、常置委員会も発足しないことになったので、この期間における臨時の措置として、常置委員会が継続して作業する必要がある場合及び第10期に設置された特別委員会が緊急に業務を処理する必要がある場合には、会長が第10期の委員だった現会員及びその他の会員をもつて構成される臨時委員会を召集する等の手段によつて処理することが決められた。

さらに「科学技術会議日本学術会議連絡部会専門委員の推薦について」の議題が提案され、これについては両副会長及び各部より1名ずつを選出し推薦することとした。ついで、(1)地方区世話人を各地方区選出会員の勧誘によつて選出すること、(2)日本学術会議選挙管理委員会委員候補者の推薦を行うこと、及び第75回総会の日程を決めた。

議事終了後、伏見議長から、第11期の日本学術会議の出発に当たって、日本学術会議のあり方等について会員が自由に意見を述べよう求めたのに対して、短時間ではあつたが活発な意見が表明された後、総会を終了した。

なお、今総会の出席率は第1日目から第3日目まで、それぞれ96%、94%、95%であつた。

（日本学術会議公報委員会）

日本地球電気磁気学会 住所録作成用カード

氏名	19 年 月 日生
ローマ字綴(姓, 名の順)	学位 (19 年) 大学)

学 歴	学校	科	19 年 月卒業・中退
	大学	学部 学科	19 年 月卒業・中退
	大学院	系 科 修士課程	19 年 月修了・中退
		博士課程	19 年 月修了・中退

勤務先 (部・課名, 職名, 所在地, 電話も記入)

□	□	□	-	□	□
---	---	---	---	---	---

市外局番 市内局番 番号 内線

電話 - - ()

自 宅 (〇〇方もお忘れなく)

□	□	□	-	□	□
---	---	---	---	---	---

市外局番 市内局番 番号

電話 - -

連絡先 勤務先 自宅

送り先：〒113 東京都文京区弥生2-11-16
 東京大学理学部地球物理学教室内
 日本地球電気磁気学会